別記様式第２号（その１の１）

基　本　計　画　書

基　本　計　画

事項	記入欄	備考
計画の区分	専門職短期大学の設置	
フリガナ 設置者	ｶﾞｯｺｳﾎｳｼﾞﾝ　ｱﾅﾌﾞｷｶﾞｸｴﾝ 学校法人　穴吹学園	
フリガナ 大学の名称	ｾﾄｳﾁｶﾝｺｳｾﾝﾓﾝｼｮｸﾀﾝｷﾀﾞｲｶﾞｸ せとうち観光専門職短期大学（Setouchi Vocational College of Tourism）	
大学本部の位置	香川県高松市屋島西町2366番1号	
大学の目的	本学は、建学の精神である「観光と社会や人類との関わりを深く探究し、観光を通じて地域社会の発展と諸外国との交流と共生に貢献する人材を育成する」の具現化に向けて、学校教育法に基づき、観光に関する教育・研究・地域貢献を三位一体として推進することを目的とする。	
新設学部等の目的	本学科は、建学の精神に基づき、「観光の理論と知識」と「観光実務の知識と技能」、及び「事業イノベーションや地域社会の魅力を創出することができる応用的能力」を兼ね備えて、「観光振興のエキスパートとして、観光産業及び観光による地域創生事業を牽引しつつ、社会構造の変化やニーズを的確に捉えて事業イノベーションや地域社会の魅力を創出することができる高度専門職業人」を養成することを教育研究上の目的とする。	

新設学部等の概要

新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
	年	人	年次 人	人		年　月 第　年次	
観光振興学科 [Department of Tourism Promotion]	3	80	―	240	観光短期大学士(専門職) [Associate Degree of Tourism]	令和3年4月 第1年次	香川県高松市屋島西町2366番1号
計		80	―	240			

同一設置者内における変更状況（定員の移行，名称の変更等）	該当なし

教育課程

新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数
	講義	演習	実習	計	
観光振興学科	41 科目	8 科目	14 科目	63 科目	96単位

教員組織の概要

学部等の名称		専任教員等 教授	准教授	講師	助教	計	助手	兼任教員等
		人	人	人	人	人	人	人
新設分	観光振興学科	5 (5)	5 (5)	1 (1)	2 (2)	13 (13)	4 (2)	23 (23)
新設分	計	5 (5)	5 (5)	1 (1)	2 (2)	13 (13)	4 (2)	― (―)
既設分	該当なし	― (―)	― (―)	― (―)	― (―)	― (―)	― (―)	― (―)
既設分	計	― (―)	― (―)	― (―)	― (―)	― (―)	― (―)	― (―)
合計		5 (5)	5 (5)	1 (1)	2 (2)	13 (13)	4 (2)	― (―)

教員以外の職員の概要

職種	専任	兼任	計
	人	人	人
事務職員	5 (5)	― (―)	5 (5)
技術職員	― (―)	― (―)	― (―)
図書館専門職員	2 (2)	― (―)	2 (2)
その他の職員	― (―)	― (―)	― (―)
計	7 (7)	― (―)	7 (7)

校地等	区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	
	校舎敷地	5,092.80 ㎡	0.00 ㎡	0.00 ㎡	5,092.80 ㎡	専門学校穴吹リハビリテーションカレッジ(収容定員300名、面積基準なし)と共用
	運動場用地	0.00 ㎡	3,830.00 ㎡	0.00 ㎡	3,830.00 ㎡	
	小計	5,092.80 ㎡	3,830.00 ㎡	0.00 ㎡	8,922.80 ㎡	
	その他	6,375.06 ㎡	397.00 ㎡	0.00 ㎡	6,772.06 ㎡	借用面積：11,467.86㎡
	合計	11,467.86 ㎡	4,227.00 ㎡	0.00 ㎡	15,694.86 ㎡	借用期間：25年

校舎	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	
	7,756.36 ㎡ (7,756.36 ㎡)	0.00 ㎡ (0.00 ㎡)	0.00 ㎡ (0.00 ㎡)	7,756.36 ㎡ (7,756.36 ㎡)	借用面積：10,896.32㎡ 借用期間：25年 校舎面積不算入部分3,139.96㎡を含む

教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	
	14 室	5 室	1 室	1 室 (補助職員 －人)	0 室 (補助職員 －人)	大学全体

専任教員研究室	新設学部等の名称	室数	
	観光振興学科	13 室	大学全体

図書・設備	新設学部等の名称	図書〔うち外国書〕冊	学術雑誌〔うち外国書〕種	電子ジャーナル〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	
	観光振興学科	3,044〔505〕 (3,044〔505〕)	38〔2〕 (38〔2〕)	0〔0〕 (0〔0〕)	31 (31)	633 (633)	0 (0)	
	計	3,044〔505〕 (3,044〔505〕)	38〔2〕 (38〔2〕)	0〔0〕 (0〔0〕)	31 (31)	633 (633)	0 (0)	

図書館	面積	閲覧座席数	収納可能冊数	
	402.7 ㎡	56席	14,640冊	大学全体

体育館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要		
	― ㎡	トレーニングルーム(203.3㎡)	エクササイズルーム(112.4㎡)	大学全体

経費の見積り及び維持方法の概要	区分	開設前年度	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次	
経費の見積り	教員１人当り研究費等		300千円	300千円	300千円	－	－	－	図書費にはﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽの整備費(運用ｺｽﾄ含む)を含む。
	共同研究費等		－	－	－	－	－	－	
	図書購入費	15,015千円	2,000千円	2,000千円	2,000千円	－	－	－	
	設備購入費	28,056千円	－	－	－	－	－	－	

学生１人当り納付金	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次
	1,150千円	950千円	950千円	― 千円	― 千円	― 千円

学生納付金以外の維持方法の概要	収益事業収入、雑収入等

既設大学等の状況	大学の名称	専門学校穴吹コンピュータカレッジ								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
		年	人	年次人	人		倍			
	情報ｼｽﾃﾑ学科	3	25	―	75	専門士	0.52	平成9年度	香川県高松市番町2丁目4番14号	令和元年度入学定員減(△15人)(情報ｼｽﾃﾑ学科)
	ｹﾞｰﾑｸﾘｴｰﾀｰ学科	3	20	―	60	専門士	0.48	平成19年度		令和元年度入学定員減(△10人)(ｹﾞｰﾑｸﾘｴｰﾀｰ学科)
	ﾈｯﾄﾜｰｸｾｷｭﾘﾃｨ学科	2	20	―	40	専門士	0.47	平成29年度		
	情報ﾋﾞｼﾞﾈｽ学科	2	20	―	40	専門士	0.54	平成9年度		令和元年度入学定員減(△10人)(情報ﾋﾞｼﾞﾈｽ学科)
	国際ITｴﾝｼﾞﾆｱ学科ｾｷｭﾘﾃｨｺｰｽ3年制	3	20	―	20	―	0.8	令和元年度		令和元年度学科開設
	国際ITｴﾝｼﾞﾆｱ学科ｾｷｭﾘﾃｨｺｰｽ2年制	2	20	―	20	―	0	令和元年度		令和元年度学科開設

既設大学等の状況	大学の名称	専門学校穴吹ビジネスカレッジ								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
		年	人	年次人	人		倍			
	ﾌﾞﾗｲﾀﾞﾙ学科	2	20	—	40	専門士	0.82	平成29年度	香川県高松市番町2丁目4番14号	平成29年度ﾌﾞﾗｲﾀﾞﾙ・ﾎﾃﾙ学科をﾌﾞﾗｲﾀﾞﾙ学科とﾎﾃﾙ学科に学科を分ける
	ﾎﾃﾙ学科	2	—	—	—	—	—	平成29年度		令和2年度より学生募集停止 (ﾎﾃﾙ学科)
	企業ﾋﾞｼﾞﾈｽ学科	2	40	—	80	専門士	0.46	平成19年度		
	公務員ﾋﾞｼﾞﾈｽ学科	2	30	—	60	専門士	0.88	平成19年度		
	公務員学科	1	10	—	10	—	0.2	平成19年度		令和元年度入学定員減 (△10人) (公務員学科)
	国際ﾋﾞｼﾞﾈｽ学科	2	40	—	80	専門士	0.38	平成27年度		
	海外ﾋﾞｼﾞﾈｽ学科	2	30	—	30	—	0.2	令和元年度		令和元年度学科開設
	日本語学科1年	1	44	—	44	—	0.59	平成14年度		4月生
	日本語学科1年6ヶ月	1.5	58	—	116	—	1.32	平成14年度		
	日本語学科2年	2	100	—	200	—	0.36	平成14年度		
	日本語学科1年	1	30	—	30	—	0	平成24年度		10月生
	大学の名称	専門学校穴吹デザインカレッジ								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
		年	人	年次人	人		倍			
	ｸﾞﾗﾌｨｯｸﾃﾞｻﾞｲﾝ学科	2	25	—	50	専門士	0.59	平成9年度	香川県高松市錦町1丁目3番5号	令和元年度入学定員減 (△15人) (ｸﾞﾗﾌｨｯｸﾃﾞｻﾞｲﾝ学科)
	ﾏﾝｶﾞ・ｺﾐｯｸｲﾗｽﾄ学科	2	25	—	50	専門士	0.68	平成26年度		令和元年度入学定員減 (△15人) (ﾏﾝｶﾞ・ｺﾐｯｸｲﾗｽﾄ学科)
	ﾄｰﾀﾙｲﾝﾃﾘｱ学科	2	25	—	50	専門士	0.75	平成16年度		令和元年度入学定員減 (△15人) (ﾄｰﾀﾙｲﾝﾃﾘｱ学科)
	大学の名称	専門学校穴吹ビューティカレッジ								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
		年	人	年次人	人		倍			
	美容学科	2	35	—	70	専門士	0.79	平成14年度	香川県高松市錦町1丁目3番5号	
	ﾋﾞｭｰﾃｨｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ学科	2	20	—	40	専門士	0.65	平成14年度		令和元年度入学定員減 (△10人) (ﾋﾞｭｰﾃｨｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ学科)
	国際ｴｽﾃﾃｨｯｸ学科	2	20	—	40	専門士	0.2	平成19年度		令和元年度入学定員減 (△10人) 令和元年度名称変更ﾄｰﾀﾙｴｽﾃﾃｨｯｸ学科 (国際ｴｽﾃﾃｨｯｸ学科)

既設大学等の状況									
大学の名称	専門学校穴吹工科カレッジ								
学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
自動車整備学科(2年制)	2	25	—	50	専門士	0.76	平成25年度	香川県高松市上天神町722番1号	平成30年度入学定員増(25人)(自動車整備学科(3年制))
自動車整備学科(3年制)	3	50	—	150	専門士	0.96	平成25年度		
大学の名称	専門学校穴吹リハビリテーションカレッジ								
学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
理学療法学科	3	60	—	180	専門士	0.82	平成14年度	香川県高松市上天神町722番1号	
作業療法学科	3	40	—	120	専門士	0.59	平成14年度		
大学の名称	専門学校穴吹パティシエ福祉カレッジ								
学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
保育・食育学科	3	—	—	—	—	—	平成24年度	香川県高松市西の丸町14番10号	令和2年度より学生募集停止(保育・食育学科)
こども保育学科	2	30	—	60	専門士	0.51	平成26年度		
介護福祉学科	2	70	—	140	専門士	0.42	平成17年度		
ﾊﾟﾃｨｼｴ･ﾍﾞｰｶﾘｰ学科	2	35	—	70	専門士	0.55	平成20年度		
大学の名称	専門学校穴吹動物看護カレッジ								
学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
動物看護総合学科	3	30	—	90	専門士	0.72	平成19年度	香川県高松市塩屋町6番2号	令和元年度入学定員増(10人)(動物看護総合学科) 令和元年度より学生募集停止(動物衛生看護学科)
動物衛生看護学科	2	—	—	—	—	—	平成18年度		
動物健康管理学科	2	40	—	80	専門士	0.68	平成18年度		
大学の名称	穴吹医療大学校								
学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
看護学科	4	80	—	320	高度専門士	0.91	平成25年度	香川県高松市錦町1丁目22番23号	令和元年度入学定員減(△10人)(医療事務･ﾄﾞｸﾀｰ秘書学科)
歯科衛生学科	3	40	—	120	専門士	0.68	平成20年度		
医療事務･ﾄﾞｸﾀｰ秘書学科	2	30	—	60	専門士	0.69	平成23年度		
診療情報管理士専攻学科	1	15	—	15	—	0.2	令和元年度		令和元年度学科開設
附属施設の概要	該当なし								

別記様式第2号（その2の1）

教　育　課　程　等　の　概　要

（観光振興学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
①基礎科目	基礎科目群（自学自修）		基礎演習	1①～②	2				○			2		2			
			キャリアデザイン論	2①・③	2			○			1	1				兼1	オムニバス・共同（一部）
	基礎科目群（思考法）		文化論	1①・②	2			○			1	1					
			地理学	1①・②	2			○				1		1			
			企業の社会的責任	1④		2		○								兼1	
			法と社会	1④		2		○								兼1	
			ビジネスコミュニケーション	2①		2		○				1					
			信仰の歴史	2①		2		○						1			
			異文化理解	2①		2		○				1					
			災害と防災の科学	1④		2		○								兼1	
			介助実務実習	1④	1					○						兼1	
			小計（11科目）	－	9	12	0	－			2	3	0	2	0	兼5	
			うち前期課程（－科目）	－	－	－	－	－			－	－	－	－	－	－	
②職業専門科目	職業専門科目群（学術）	観光学入門科目	観光学概論	1①	2			○			1					兼1	
		地域観光論入門科目群	地域資源論	1①	2			○				1					
			地域観光基礎実習	1②	1					○		2		2			
		観光基礎理論科目群	観光社会文化論	1②・④	2			○			1	1					
			観光振興・地域創生論	1②・④	2			○			1						
			観光行動論	2①・③	2			○			1						
			観光政策論	2①・③	2			○			1						
		観光応用理論科目群	国際観光論	2③		2		○			1						
			観光文化施設論	2①		2		○						1			
			観光メディア論	2①		2		○						1			
			観光データ整理実習	2①・③	1					○						兼1	集中
			エコツーリズム実習	2③	1					○						兼1	
		せとうち観光研究科目群	せとうち観光アート論	3①		2		○								兼1	
			せとうち観光資源論	3②		2		○								兼1	
			四国巡礼研究	3③		2		○								兼1	
			四国観光史	3④		2		○								兼1	

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
②職業専門科目	職業専門科目群（実務）	観光実務理論科目群	ホスピタリティマネジメント論	1①・②	2			○			1	1					
			観光リスクマネジメント	1①・②	2			○			2						
		観光事業論科目群	観光事業論	1①・②	2			○			1						
			交通産業論	3②		2		○								兼1	集中
			宿泊産業論	3②		2		○				1					
			地域創生事業論	3②		2		○			1					兼1	オムニバス
		臨地実務実習事前学修科目群	ホスピタリティ実務実習A	1②		1				○		1			1		
			ホスピタリティ実務実習B	1②		1				○		1			1		
			観光支援ビジネス実務基礎論	1③	1			○			1	3	1				
			観光実務基礎論	2①	1			○			1	1	1				
			観光実務応用論	2③	1			○			1	1	1				
		臨地実務実習科目群	臨地実務実習Ⅰ	1③	4					臨	1	3	1		1		
			臨地実務実習Ⅱ	2②	8					臨	3	3	1		1		
			臨地実務実習Ⅲ	2④	8					臨	3	3	1		1		
		臨地実務実習事後学修科目群	観光支援ビジネス実務発展論	1④	1			○			1	3	1				
			観光実務発展論	2③	1			○			1	1	1				
			観光実務マネジメント論	3①	1			○			1	1	1				
	職業専門科目群（観光英語）		観光基礎英語Ⅰ	1①	1				○							兼2	
			観光基礎英語Ⅱ	1②	1				○							兼2	
			観光英語Ⅰ	1④		1			○							兼1	
			観光英語Ⅱ	2①		1			○							兼1	
			観光英語Ⅲ	2③		1			○							兼1	
			観光英語Ⅳ	3①		1			○							兼1	
			小計（39科目）	－	49	26	0	－			5	5	1	2	4	兼11	
			うち前期課程（－科目）	－	－	－		－			－	－	－	－	－	－	
③展開科目	展開科目群		経営学	2①・③	2			○								兼1	
			中小企業論	3①		2		○								兼1	
			コミュニティデザイン論	3②		2		○								兼1	
			マーケティング論	3③		2		○								兼1	
			起業論	3④		2		○								兼1	
			ファシリテーション実習	3②	1					○						兼1	集中
			ICTとIoT	3①・②	2			○								兼1	
			人工知能概論	3①・②	2			○								兼1	
			ICT実習	3③・④	1					○						兼1	
			人工知能プログラミング実習	3③・④	1					○						兼1	
			マップデザイン実習	3①・②	1					○				1			
			メディアコンテンツ実習	3①・②	1					○				1			
			小計（12科目）	－	11	8	0	－			0	0	0	2	0	兼7	
			うち前期課程（－科目）	－	－	－		－			－	－	－	－	－	－	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考
④総合科目	総合科目	専門演習	3通	4				○		2	5	1	2		
		小計(1科目)	－	4	0	0	－			2	5	1	2	0	0
		うち前期課程(-科目)	－	－	－	－	－			－	－	－	－	－	－
合計(63科目)			－	73	46	0				5	5	1	2	4	兼23
うち前期課程 (-科目)										－	－	－	－	－	－

学位又は称号	観光短期大学士（専門職）	学位又は学科の分野	社会学・社会福祉学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
【卒業要件】 次により、必修科目73単位、選択科目23単位以上、合計96単位以上を修得すること。 基礎科目15単位以上 選択科目のうち、企業の社会的責任、法と社会、ビジネスコミュニケーション、信仰の歴史、異文化理解、災害と防災の科学から6単位を選択必修とする。 職業専門科目62単位以上 選択科目のうち、せとうち観光アート論、せとうち観光資源論、四国巡礼研究、四国観光史から4単位、交通産業論、宿泊産業論、地域創生事業論から2単位、ホスピタリティ実務実習A、ホスピタリティ実務実習Bから1単位を選択必修とする。 展開科目15単位以上 選択科目のうち、中小企業論、コミュニティデザイン論、マーケティング論、起業論から4単位を選択必修とする。 総合科目4単位以上 (履修科目の登録の上限:42単位(年間))	1学年の学期区分	4学期
	1学期の授業期間	8週
	1時限の授業時間	90分

別記様式第２号（その３の１）

授　業　科　目　の　概　要

（観光振興学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎科目	基礎科目群（自学自修）	基礎演習	この演習では、本学での学びに必要な基礎的技能を養うとともに、社会人の一般常識の必要性を理解し、「自学自修の態度」も身につける。まず、本学で効果的な学修ができるように、アカデミック・スキルズとして、ノートテイキング、リーディングスキル、ライティングスキルなどの学び方を修得する。次に、生涯に渡るキャリア形成の一助となり、本学が推薦する「キャリア形成必読書」のうち、教員が指定する一般常識関連の書籍1冊の読み方を修得する。演習全体を通し、本学の学生に求められる資質である「人間力」（human resourcefulness）の涵養について、目安の１つとなる「パーソナリティの成長次元」という基礎概念を理解したうえで、自らのキャリア形成を有意義なものにする学び方を考える。なお本演習では、グループワークを適宜取り入れて学修を行う。	
		キャリアデザイン論	（概要） 人生100年時代と言われる現代は、これまでの時代よりもさらに、社会に出た後の人生に長期的な見通しが必要とされる。本学での学修期間は、多くの学生にとって社会に出る直前の段階にあたるため、本学での時間をどのように過ごすかによって、今後の人生が大きく変わることが予想される。この授業は、キャリアデザインにおけるさまざまな考え方、社会人基礎力について学修しながら、学生自身の今後の人生において課題となりうる物事を予測し、その解決方法を考察する。自らの手で主体的にキャリアを構想･設計することにより、これからの人生を長期的に見通し、より豊かなものとしていくためのキャリア形成の知識を身につけるのが、この授業の目的である。なお、授業は講義形式で展開する。 （オムニバス方式／全15回） （ 9　青木　義英／2回） 本学の学びは、臨地実務実習など、企業や地域社会と密接に連携して実現する極めて実践的なものである。本学のそうした学びが、学生自身のこれからの人生にどのように結びつき、どのように役立てていくことができるのかを考察する。 （ 11　堀田　明美／2回） 主体的にキャリアをデザインしていくための態度形成とはどのようなことかを学修する。社会人基礎力の土台でもある人間性、基本的な生活習慣、また学士力の中でも提言されるコニュニケーション、態度、志向性、倫理観などを身に付ける。 （ 14　福田　稔／10回） クランボルツの「計画的偶発性理論」(Planned Happenstance Theory)に基づいたキャリア形成論の考え方を学び、グループワークによるディスカッションやコンセンサスゲーム等を通して、自らのキャリアを形成するための基本的態度を身に付ける。 （ 9　青木　義英・ 11　堀田　明美／1回）（共同） 本科目の最終の回となる15回目の授業で、これまでの授業の総まとめとして、ワークショップなどを通し、学生自身のこれからのキャリアを自らの手で主体的に構想・設計する。	オムニバス方式 ・ 共同（一部）
	基礎科目群（思考法）	文化論	文化とは何か？学問において文化はどう捉えられ、理解することができるのか？この授業では、日常的によく用いられるものの、捉えにくい「文化」について理解することを目指す。授業は、社会学・文化人類学の視点を軸に据えて展開する。文化研究の対象となり得るモノゴトは何であって、その対象をどう捉えるとどういった分析・考察ができるのか、という思考のプロセスを、具体的事例を織り交ぜながら示していく。授業は原則、講義形式で展開されるが、グループワークによるディスカッションで、学生が各テーマについて思考し、それをアウトプットする機会も設ける。授業の後半の回では、授業進度もみながら、各回のテーマ（テキスト）について要約・発表してもらうこともある。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎科目	基礎科目群（思考法）	地理学	この授業では、人文地理学の基本的な事項・知識として修得すべき内容について、具体的な事例を紹介しながら講じる。まずは、基本的な地理学の考え方を学修したのち、日本における人口問題や農村・都市における諸問題、農業をはじめとした産業にかかわる地理学研究の基本的な概念や成果を理解する。さらに、現在の景観を形成してきた過去の景観や人々の営みやまなざしについても学び、各地で注目されているさまざまな観光現象について、地理学的な視点から得られた知見を把握する。また、近年盛んとなっている地理情報システム（Geographic Information System:GIS）や、防災・減災の地理学についての取り組みが紹介される。なお、授業は講義形式で展開される。	
		企業の社会的責任	企業が事業活動を続けていくうえでは、従業員だけでなく、顧客、取引先、消費者、株主、地域社会、自治体や行政など多様な利害関係者と関わっている。こうした利害関係者と良好な関係を保ちながら事業活動を継続していくことが企業の社会的責任である。本講義では、利益の追求にとどまらず、納税や法令順守、安心・安全な商品やサービスの提供、環境への取り組みなど多様な社会的責任の果たし方を学ぶことで、企業の社会的責任とは何か、組織とは何かを考察する。	
		法と社会	本講義では、現代社会における法律による規制の役割と機能を概説し、社会で働く上で必要となる法律の基礎的な知識を身につけ、運用することを目標とする。講義では、社会生活を営む上で、教養として知っておくべきである法律（憲法、民法、会社法、刑法、行政法など）に関するテーマについて扱う。なお、この授業は基本的には講義形式で進行するが、具体的な事例（過去の事例、時事問題）を提示し、その事例の法的問題、解決方法についてグループワークを行う時間を適宜設ける。	
		ビジネスコミュニケーション	この授業は、学生から社会人への円滑な移行のため、ビジネスでの基本的なコミュニケーション能力の養成、職業意識の修得、主体的なキャリアプランの明確化を目的とする。ビジネスコミュニケーションの基本部分は、社会人基礎力としての土台である日常生活でのマナーや、他者との関係づくりにおけるソーシャルスキルとも関わっている。関連項目は多岐に渡るが、本授業では、それらを体系的に学び、日常で実践できるレベルを学修の到達点とする。ペアワーク、グループワーク、ワールドカフェなど、さまざまな形式でアクティブラーニングを行うことで、ディスカッション・プレゼンテーション・ディベート等のスキルの基本を身につけ、多種多様な対人対応において、臨機応変で、問題解決ができる柔軟なコミュニケーション能力の実践を目指していく。また本授業は、社会人となる準備として、すべての実務実習・インターンシップにもすぐに役立つ学修とする。	
		信仰の歴史	信仰とは、神仏などを信じて崇めることをいい、日本では古くからさまざまな事物や事象がその対象となってきた。とくに近世には、伊勢・稲荷・観音・金毘羅といった社寺参詣を伴うものや、富士信仰をはじめとする山などの自然物を対象としたものなど、多様な信仰の形態がみられる。本講義では、このような過去における人々の営みについて、当時の出版物や絵画、人々が記した旅日記といったさまざまな歴史資料が紐解かれながら紹介される。そこで、近世の信仰のあり方についての理解を深めることを通じて、歴史資料から過去の現象の解明にアプローチする方法論を修得する。なお、授業は講義形式で展開する。	
		異文化理解	多様な文化的背景の人々が集まると、必ず葛藤が生じる。比較的同質とされる日本社会では、こうした文化間の葛藤や多文化共生の視点が苦手である。グローバル化した今日においてはこの種の葛藤は不可避であるが、逆にそれは文化の多様性や多文化共生を理解するチャンスでもある。異文化理解を検討する上で、この授業では、イスラーム教やイスラーム世界の文化・慣習を対象にする。それは、世界のイスラーム教徒人口が15億人を超え、イスラーム教やイスラーム諸国との日常的な接触が増えたにも関わらず、日本人の認識は必ずしも豊富といえないからである。しかも、イスラーム世界といっても一枚岩ではなく、各地で多様でもある。そこで、この授業では、イスラーム世界およびイスラーム教・文化について基本的な知識や理解を獲得することで、異文化理解の視点を養うことを目的とする（ただし、イスラーム世界の多様性にも十分に注意を払うことにする）。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎科目	基礎科目群（思考法）		災害と防災の科学	日本はプレート境界の地震火山列島である。また、夏には台風や梅雨前線による豪雨災害列島となり、冬季の日本海側は豪雪列島となる。このような災害列島における安全な生活のためには、地域の災害特性を知り、防災情報や防災施設を活用して、身の安全を確保する必要がある。本講義では、日本における主要な災害の発生メカニズムと被害の特徴、施設による防災・減災対策、ハザードマップや防災気象情報の入手と活用方法、災害時の避難方法、災害後の対処方法（縮災）、災害遺構等を学び、災害時の危機管理能力を育成する。	
			介助実務実習	この授業では、ボディメカニクス（身体力学）にもとづき、介助を必要とする人と介助をする人との両者にとって安全かつ安楽な介助技術を修得する。そのさい、外出時における適切な介助の知識と技術を中心に学ぶ。また、技術だけでなく、高齢者や障害者福祉のサービス、高齢者や疾病を持つ人（視覚障害、知的障害、全身性障害）の心理状態、身体機能や生活障害と環境との関係などについての基礎知識も学修する。それらの学修を通して、介助を必要とする人との基本的なコミュニケーション技術やリスクマネジメントについての理解を深める。なお、この授業は、学生が実際に介助の動作を行うなど、実技を中心とした実習形式で展開する。	
職業専門科目	職業専門科目群（学術）	観光学入門科目	観光学概論	この授業では、現代観光の関連領域に生じる現実の中から、観光振興専門職の基礎知識として身につけるべき主要な観光事象と、それらの事象を捉える理論や方法を講義形式で学ぶ。現代観光の関連領域を学修するにあたり、まず、「観光とは何か」（観光の定義と歴史）を理解する。次に、現代観光の領域全体を、「観光事象と社会が影響を及ぼし合う領域」（観光と社会・経済・文化・環境等の関連領域）と、「観光事象を支える仕組みの領域」（観光と国際機関・観光行政・観光事業等の関連領域）との2つに分け、それぞれの領域にアプローチした観光学の研究成果を修得する。	
		地域観光論入門科目群	地域資源論	学問の系譜において、「地域資源」という言葉は、観光の分野ではなく、地域資源管理あるいは生態資源との関連で用いられてきた。ところが今では、社会的な要請により、まちづくりや地域づくりとの関連で、建物や暮らし、文化、産業など、地域を特徴づけるさまざまな資源を「地域資源」として広く認識するようになった。この授業では、まず（1）地域資源そのものを学術的に検討する。次いで、（2）地域資源を生み出す地域の気候や地形などの自然的要素および地域の技術や交通などの人文的要素について検討する。さらに、（3）そうした地域の構成要素が「地域資源」としていかに見出されたのかについても批判的に検討することで、地域資源という概念の問題点についても考察する。なお、授業は講義形式で進める。	
			地域観光基礎実習	特定の集団・組織や地域社会を理解したり、課題の発見や解決の方策を考えたりするには、その対象の現状を把握するための調査手法や対象と向き合う心構えの修得が不可欠である。この実習では、研究はもとより、社会生活においても必要不可欠なスキルである、社会調査の手法と心構えについて、実践を交えながら学修する。授業では、調査手法について学修したのち、実際にフィールドワークを行い、リサーチのプロセス（計画準備～実施～データ整理・分析～成果報告）を実践する。調査はグループワークで行う。 フィールドワークは校舎近隣の観光関連施設（例：公園・文化施設、門前町・商店街・ショッピングセンター・道の駅、空港・港・駅・バスターミナル、うどん店等）を予定している。なお、第14回と第15回の授業では、パワーポイント等を用いたプレゼンテーションにより、成果報告を行う。	
		観光基礎理論科目群	観光社会文化論	この授業では、社会学や文化人類学などがとらえた「社会文化現象にかかわる観光」の研究を理解しながら、その研究で用いられる理論や方法も修得する。社会文化現象にかかわる観光は、1960年代に出現した「大衆観光」が、世界中の国々に多くの重大な社会経済的影響を及ぼすにつれて認識され始めた。大衆観光は、観光客受け入れ社会の文化や自然にさまざまな負の影響を及ぼしたので、大衆観光に代わる新しい観光の形態が、1980年代以降に模索され、その後の1990年代に、観光によって地域の文化や自然をまもり、「持続可能な地域社会」を構築する観光が実践された。その観光は、「持続可能な観光」と呼ばれる。このように再構築された「社会文化現象にかかわる観光」について、社会学や文化人類学が何をどのように考察したのかを学ぶ。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業専門科目	職業専門科目群（学術）	観光基礎理論科目群	観光振興・地域創生論	この授業では、観光振興が地域創生と共振して「持続可能な地域社会」の形成をめざす現実と、その現実をとらえる研究の理論や方法とを学ぶ。少子高齢化の時代が到来し「地方消滅」の社会状況が予測されるなかで、観光振興と地域創生のそれぞれの新たなあり方が交差して、地域を活性化し持続可能な地域社会を形成しようとする事例がいくつかみられるようになった。そのような事例が生じた経緯を、まず、一方で戦後の地域開発政策から現在の地方創生政策までの地域振興の変遷と、もう一方で大規模な観光地開発から持続可能な観光開発までの観光振興にかかわる変遷とをたどって明らかにする。そして、事例が発生した経緯の分析結果を踏まえて、観光振興と地域創生が結びつく持続可能な地域社会の形成が、いかに実現するかを考える。	
			観光行動論	この授業は、観光行動の社会心理学的なメカニズム、および観光行動と観光対象の関係について講義形式で学ぶ。経済的に豊かな社会では、観光が個人の日常生活の一部となり、個人や集団の観光行動が現代社会に広く普及した結果として、観光行動が現代社会のさまざまな領域で大きな影響を及ぼすようになった。そうした観光行動がどのような社会心理学的な仕組みで発生し、また観光行動がどのような社会的現実をいかに生みだしているのかについても、観光研究の知見を通して解説される。観光行動の研究は、観光研究における主要な課題の一つなので、その研究成果は観光に関連する多くの研究課題に応用される。	
			観光政策論	この授業では、観光政策において、観光行政が実施に至る政策的プロセスや事業実施の財政的な支援スキーム等について学ぶ。本講義は、観光行政が取り組む「４つの施策」を主題とする。その「４つの施策」とは、①外貨獲得や自国に対する理解の増進等といった国益の実現をめざす「インバウンド観光の振興」、②社会政策的視点から余暇生活の充実による国民福祉の向上をめざす「国内観光旅行やアウトバウンド観光の振興」、③一国経済政策の視点から国内産業の活性化や雇用の増大等をめざす「観光関連産業の振興」、そして④地方経済政策の視点から地域経済の活性化や地域の経済格差是正等をめざす「地域観光関連産業の振興」である。この４つの主題が、①政策の現実と変遷、②観光行政の手法、そして③「観光政策事例研究」という３つの切り口から解説される。	
		観光応用理論科目群	国際観光論	この授業では、国際観光の歴史と現実を学び、国際観光が地球規模でもたらす影響や問題点について考える。大衆化した国際観光は1960年代から出現し、その規模は今日までに急速に拡大し続けている。1960年に7000万人であった年間国際観光客数は、2017年に13億2000万人にまで増大した。このように規模が拡大する国際観光は、いまや世界の動向に重大かつ多様な影響を及ぼす。国際観光がもたらす影響は、収益の増大といった正の効果ばかりでなく、観光公害、文化変容、自然破壊といった、深刻な負の効果も生み出してきた。そうした重大な影響力をもつ国際観光の動向や本質を明らかにして、現代日本における国際観光の現実と問題点についても考えていく。なお、授業は講義形式で展開する。	
			観光文化施設論	この授業は、数ある観光施設（宿泊施設、飲食施設、土産物店などの物販施設、観光案内施設、交通施設等）の中でも、特にレジャー・文化関連の施設を「観光文化施設」とし、その成り立ちを中心に学ぶ。観光文化施設には、例えば博物館や動物園、テーマパークなどが挙げられ、これらは身近なレジャー施設であると同時に、それ自体が観光目的となり遠方から人々を呼び込む観光資源にもなりうる。多くは明治以降に作られたものであるが、その源流は江戸時代からたどることが可能である。近世の人々の文化や習慣、娯楽等が、西洋の影響や近代化を経てどのような形で今日のレジャー施設・文化施設へと転じていったのかを示しながら、これらの施設の現在の状況や機能について事例を用いながら学ぶ。なお、授業は講義形式で行う。	
			観光メディア論	観光や観光振興は、メディアと深いかかわりがある。この授業では、ガイドブックや旅番組など、旅行情報を提供する広報ツールとしてのメディアの一面を取り扱うだけでなく、メディアがもたらす地域への影響や地域住民へのアイデンティティへの波及、観光客同士の情報交換など、さまざまな観点から観光とメディアの関係性を学ぶ。それにより、学生自身が各々に馴染みのある地域を題材に、その地の観光とメディアの関係について具体的に考察できるようになることを目指す。なお、授業は講義形式で展開し、基本的にはテキストの内容に準じて進める。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業専門科目	職業専門科目群（学術）	観光応用理論科目群	観光データ整理実習	情報やデータの収集・処理・加工・分析は、観光の分野にとどまらず、現代社会では基礎的かつ必須の素養である。UNWTO（World Tourism Organization of the United Nations 国連世界観光機関）の観光統計を含め、観光関連の統計データは国内外で整備が遅れていた。それが近年、観光に関するデータや統計の整備が進みつつあり、こうした情報を利用することで、**観光振興**の問題点などを洗い出しやすくなった。そこで、この実習では、主として観光に関連するデータを収集、整理し、さらに図表化することで、観光にかかわる諸現象を総合的・学術的に把握し、さらに観光と地域の特徴をわかりやすく説明する能力を獲得することを目標とする。なお、データの整理、分析、図表化には、表計算ソフトExcelを使用する。また、観光にかかわるアンケート調査のデータ整理についても基本的な知識を身につけることを目標とする。	
			エコツーリズム実習	「エコ」という言葉の由来は「エコロジー（生態学）」にあるが、近年では「環境に配慮している」ことを意味することが多い。エコツーリズムは、**特定のエリア**の環境保全にも貢献する観光の一形態であり、言い換えれば「持続可能な観光（サステイナブルツーリズム）」の一つである。この実習では、地域資源やそれらを取り巻く環境を理解し、その保全および観光における活用を目的としたエコツアーを作成することを主眼とする。また、事業として成り立たせるために必要なガイドとして修得すべき技術（心構え、コミュニケーション、知識の修得方法、伝え方等の技術等）、フィールドを活用したプログラムの企画・運営・改善方法等について、実践しながら学び修得する。	
		せとうち観光研究科目群	せとうち観光アート論	本授業においては、近年瀬戸内海を代表する著名な観光地となった「直島」の開発及びその活動の経緯について、複数の視点からアプローチすることで、観光のもつ本来的な意義や可能性及び課題について学ぶ。具体的な視点としては、直島を軸とした地域の現状分析、行政のリーダーシップによる観光開発、企業の文化活動としての地域開発、地域に根差した現代アート活動、現代アート活動による地域の活性化、地域型芸術祭の現状等を中心とする。講義による学修に加え、事前のテーマ設定の上、直島現地の視察を行うと共に、視察結果に基づく課題及び提案については、討議や相互フィードバックなどのグループワークを行い、相互発表する機会を設けるものとする。	
			せとうち観光資源論	観光の対象となる観光資源の分類には、海、島、山岳などの「自然観光資源」と、社寺、城郭、公園などの「人文観光資源」、郷土景観、歴史景観などの「複合型観光資源」といった3つがある。本講義では、瀬戸内地域におけるそれぞれの観光資源について知識を深めるとともに、日本国内だけでなく、インバウンド観光客を受け入れられる地域とするためには、これらの観光資源をどのように磨き上げ、その魅力等をどのような形で発信していくかを考察する。	
			四国巡礼研究	四国遍路には、長い歴史、幾多の変遷があるが、現代においては、1990年頃から、原点回帰の「歩き遍路」が復活し耳目を集めている。外国人お遍路さんの急増は史上初の現象といえる。現代において、わが国のみならず、世界中が四国遍路の魅力を発見・再発見するようになったのはなぜか。本講義では、これを中心テーマに据える。四国遍路の現代的意義を考察するには、多数出版されている遍路体験記が役立つ。多くの時間とお金を費やして遍路道を歩く理由は何か。遍路体験記から明らかになるのは、ものの豊かさより、スピリチュアルな価値を求める現代人の姿である。やや誇張した言い方になるが、四国遍路は、スピリチュアル・ツーリズムといえよう。講義では、四国遍路のそのような側面に焦点を当てるが、予備知識として四国遍路の歴史や遍路の思想的背景についても学ぶ。また、体験的理解も有効なので、可能な限り遍路体験を授業の中に取り入れたい。	
			四国観光史	本講義では、これまで四国地域が観光においてどのように発展してきたか、近代から現代までの四国の観光の歴史を学修する。また、これまでの四国の観光の歴史を理解した上で、これから四国の観光がどのような方向に向かおうとしているのか、また現在どのようなことが必要とされていて、そうしたニーズにこれからどのように対応していくのかについて、四国の各地域の自然、社会、文化・芸術、人物、インフラなどさまざまな観点からアプローチし、考察する。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業専門科目	職業専門科目群（実務）	観光実務理論科目群	ホスピタリティマネジメント論	「ホスピタリティ」は、とくに事業経営において、1990年代から「サービス」に代わって使われる用語となり、また経営活動に不可欠な職業的行為やその仕組みとなった。このようなホスピタリティを管理・運営する「ホスピタリティマネジメント」は、観光事業において重要な経営施策であり、また観光専門職にとっても不可欠な能力・技能である。そこで、この授業では、「ホスピタリティ」の意味を理解したうえで、品質の高いホスピタリティを管理し提供するための「ホスピタリティマネジメント」を学修する。なお、授業は講義形式で展開する。	
			観光リスクマネジメント	観光の3要素は安全性・経済性・快適性とされている。その中でも、最重要課題は「安全性」である。楽しみと危険は表裏の関係にあるが、例えば観光地で素晴らしい景色や美味しい料理を満喫しても、帰路で交通事故に遭ったらどうだろうか。その旅全体が暗いものとなってしまうことであろう。観光分野では、常に安全を最優先にした対応が求められる。つまり、観光業に携わる人材は、想定される危険（リスク）を極小化する努力を、常に行わなければならない。この授業では、安全とは何か、安全になるとはどういうことなのか、観光客を歓待するホストとして守るべきものは何かを学び、観光業に必要なリスクマネジメント能力を修得する。なお、授業は講義形式で展開する。	
		観光事業論科目群	観光事業論	従来の観光事業論は、観光産業論ともよばれ、観光関連企業が利潤を追求する諸活動を研究したが、最新の観光事業論は、政府、自治体や公益団体が主体となって、観光関連企業とも連携・協働し、地場産業、地元企業や地域住民にとって有益な「社会的価値」を生み出す諸活動の総体を研究するようになった。そこで、この授業では、政府や自治体が自ら、あるいは民間企業と連携して、地域住民の福利厚生や地域全体の活性化を目指して実践する全ての観光事業活動について学ぶ。その際、我が国の観光事業の具体的なプログラムを観光政策のジャンルごとに説明し、世界の観光主要国の観光事業とも比較しながら検討する。	
			交通産業論	この授業では、人員の移動や運送にかかわる全ての産業、すなわち陸運・水運・空運全般とその関連分野を対象として、それぞれの発祥期から現代に到るまでの発展の歴史や、社会的・経済的な役割、現在の課題や今後の展開、さらには現在特に社会的な注目度が高い個別の関連テーマなどについて学ぶ。また、これらの学修結果を踏まえた上で、後半では特に「公共の利益の視点」「観光業振興の視点」等、多角的な視点から交通産業について考察を深める。	
			宿泊産業論	この授業の目的は、宿泊産業の古来から現代に至る歴史的な役割をたどり、地域産業としての宿泊業の重要性を認識することである。そこで、宿泊産業が歴史的に発展してきた経緯を概観したうえで、日本の外資系ホテルと国内系ホテルにおける宿泊パッケージプラン、料金宿泊形態、収益部門などの特徴から、両系のホテルの経営方法、顧客フォロー、経営の現状などについて比較検討しながら、宿泊産業全体の動向をとらえる。また、近年の宿泊産業が、各事業所の所在地域の観光振興や地域連携を模索し実践する状況を探り、そうした状況を踏まえて、今後の宿泊産業の長期的な課題や展望について考える。	
			地域創生事業論	（概要） この授業では、地域創生事業の理論と実践について、特に中心商店街活性化による地域創生を事例として学ぶ。授業では、まず地域創生の実践において多くの地域が抱える一般的な諸課題を理解するとともに、地域経済の実態や地域行政組織の仕組みや役割について考察する。なお、地域行政組織の仕組みや役割については、学生が、授業全般に渡る主担当教員の実践的理論に加え、その基盤となる高度な学術的理論を学修することができるよう、学術系の兼任教員を補充して行う。そのうえで、次にそれらの課題を解決するための、地域創生の理論と方法を考察して、さらにそうした取り組みが地域にもたらす影響についての知識も修得する。具体的には、成功事例と評価される、実在する商店街の地域創生事業を題材として、その事業コンセプト、事業プロセス、事業の特長、などを理解したうえで、地域創生事業の結果として地域経済がいかに活性化し、また持続可能な観光振興が地域創生事業にいかに寄与するかについての仕組みを学修する。 （オムニバス方式／全15回） （①　古川　康造／13回） 授業では、まず地域創生の実践において多くの地域が抱える一般的な諸課題を理解するとともに、地域経済の実態についても学修する。そのうえで、成功事例と評価される、実在する商店街の地域創生事業を題材として、その事業コンセプト、事業プロセス、事業の特長、などを理解したうえで、地域創生事業の結果として地域経済がいかに活性化し、また持続可能な観光振興が地域創生事業にいかに寄与するかについての仕組みを学修する。 （②　藤原　直樹／2回） 第4回、第5回の地方自治と行政組織①及び②においては、地域行政組織における、組織の成り立ち及び政策決定の仕組みと過程について学術的な理論を学修した後、それらの地域行政組織が観光による地域創生事業において果たしている役割や取り組みについて学修する。	オムニバス方式

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業専門科目	職業専門科目群（実務）	臨地実務実習事前学修科目群	ホスピタリティ実務実習Ａ	ホスピタリティ(歓待）の概念は、古来より互酬性、共生関係の中で存在していたが、産業化社会以降のビジネス経済の世界では、サービスの実施としてその捉え方にも変化が見られた。生活環境がグローバル化と多様化の時を迎えた中で、観光実務においても、ホスピタリティや日本的なもてなしの価値観をどのように実践・発揮するかが問われている。この授業は、コミュニケーション、基本的なソーシャルスキルといった人とのかかわり方が重要となる観光振興専門職においての参加型実務実習である。実習では、場面とスキル項目が設定され、段階的にわかりやすく学修でき、個人・グループ・チームで実習を繰り返すことで相互のフィードバックも得られる。ホスピタリティの知識や周辺概念の講義と共に、観光地での日常における来訪者（ゲスト）のもてなしや、接遇、接客スキルを発揮するための実践内容でもある。	
			ホスピタリティ実務実習Ｂ	この実習では、料飲業務の現場を事例として、高品質のホスピタリティを提供できる知識や技能を学び、チームで働く協働力を養い、率先して行動する実践力を身につける。ホスピタリティを基幹業務とするサービス業従事者の実務において求められる、正しい立ち居振る舞い、言葉遣い、マナー、プロトコル、サービス等を学んだ後、クレーム対応やチームでのサービスなど、臨地実務実習で想定されるさまざまなシーンへの対応についても学修する。個人・グループ・チームで実習を繰り返すことで相互のフィードバックも得られる。なお本実習は、ホスピタリティの知識と技能の修得を目的とするが、同時に、臨地実務実習の学修をより効果的なものとするための実習でもある。	
			観光支援ビジネス実務基礎論	この授業の目的は、「臨地実務実習Ⅰ」の学修をより効果的なものとするため、当実習の事前学修科目として、観光振興・地域創生の重要な実践主体である観光支援ビジネス施設の実務と、そのビジネス施設による観光振興・地域創生の実践とに関連する基本的な知識や技能を学修することにある。「臨地実務実習Ⅰ」の実習地域は、香川県内の①高松・東讃、②中讃、③西讃、④小豆島、⑤直島の５エリアであり、また実習施設は、それぞれのエリアに所在する観光支援ビジネス施設であるので、本授業はこの５エリアの観光および観光振興の現状と、各エリアの観光支援ビジネス施設の特徴などについて、講義やグループワーク、学生のプレゼンテーションなどの授業形式で学修する。	
			観光実務基礎論	本授業の目的は、「臨地実務実習Ⅱ」の学びを円滑かつ効果的にするため、実習先の観光支援ビジネスの業務を想定して、あらかじめ身につけておくべき知識と技能を修得することにある。授業では、実習先の観光支援ビジネスのうち、交通、宿泊、観光地域創生について、各事業の歴史や特性、経営と課題、事業所の組織、部門別業務概要などの総括的知識にくわえ、それぞれの事業において近年特に重要性が増している地域観光振興への取り組みなどについても学修する。授業は主に講義形式で展開されるが、グループワーク、パワーポイントを使用した発表などの機会も設ける。また、「臨地実務実習Ⅱ」において体験することとなる部門別実務への予行演習として、観光支援ビジネス施設の各業務部門での具体的な職務手順や関連する専門知識などについて、ロールプレイも交えながら実践的に学修する。	
			観光実務応用論	本授業の目的は、「臨地実務実習Ⅲ」の学びを円滑かつ効果的にするため、実習先の観光支援ビジネスの主にマネジメント業務を想定して、あらかじめ身につけておくべき知識と技能を修得することにある。授業では、実習先の観光支援ビジネスのうち、交通、宿泊、観光地域創生について、事業体の経営理念、各事業のマネジメントとその課題などの総合的知識にくわえ、それぞれの事業において重要性が増している地域観光振興への理念や実践管理などについても学修する。授業は主に講義形式で展開されるが、グループワーク、パワーポイントを使用した発表などの機会も設ける。また、「臨地実務実習Ⅲ」において体験することとなる部門別実務への予行演習として、観光支援ビジネス施設の各業務部門での具体的なマネジメント手法や関連する専門知識などについて、ケーススタディも交えながら実践的に学修する。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業専門科目	職業専門科目群（実務）	臨地実務実習科目群	臨地実務実習Ⅰ	この実習は、観光をさまざまな形態で支援する地域の交通、宿泊、その他の観光関連諸施設において、各施設の実務を体得し、また同時に各施設がその立地する地域の観光振興・地域創生とどのように連携しているかを実践的に学ぶ。実習先の施設は、本学が定める香川県内の①高松・東讃、②中讃、③西讃、④小豆島、⑤直島の５エリアにおいて観光支援ビジネスに従事する各施設である。各施設での実習を通して、それぞれの実務を身につけると同時に、その施設の事業が当地域の観光振興・地域創生事業といかに関係し、また他の諸施設といかに連携しているか、といった地域の観光振興・地域創生にかかわる状況を理解する。	
			臨地実務実習Ⅱ	この実習では、観光支援ビジネスで高い実績をあげ地域の観光振興にも寄与する事業体を実習先として、観光支援ビジネスの現場のフロントラインからバックヤードまで、基礎的な実務を実践的に学修する。具体的には、各事業体が従事する基礎的実務、つまり「覚えて遂行する実務」と、業務や地域観光振興・地域連携業務にかかわる基礎知識を修得する。実習先となる観光支援ビジネスの事業体は、①航空、②鉄道、③宿泊、④観光地域創生という４分野のクラスに分けられる。この４クラスの中から学生は自身で実習先となる事業体を選択して、観光支援ビジネスの基礎的実務の実習を行い、思考力、実践力、協働力を実践的に身につける。本実習は、学生各自が実社会の現場における実際の活動に身を置いて学ぶので、普段よりいっそうの真摯な学修態度が求められる。	
			臨地実務実習Ⅲ	この実習では、観光支援ビジネスで高い実績をあげ地域の観光振興にも寄与する施設を実習先として、観光支援ビジネスの現場とオフィスにおいて、基礎的実務にくわえ、高度な応用的実務も実践的に学修する。具体的には、「臨地実務実習Ⅱ」で学修した基礎的実務とともに、各事業体における応用的実務、つまり「考えて実践する実務・計画して実践する実務」と、業務や地域観光振興・地域連携にかかわるマーケティングやマネジメントなどの応用的知識を修得する。実習先となる観光支援ビジネスの事業体により、①航空、②鉄道、③宿泊、④観光地域創生という４分野のクラスに分けられる。この４クラスの中から学生は自身で施設を選択して実習を行い、思考力、実践力、協働力を実践的に身につける。本実習は、学生各自が実社会の現場における実際の活動に身を置いて学ぶので、普段よりいっそうの真摯な学修態度が求められる。	
		臨地実務実習事後学修科目群	観光支援ビジネス実務発展論	この授業は、「臨地実務実習Ⅰ」の学修成果を振り返り、その効果を理論的に整理して自身の能力に定着させ、さらに今後の学修全体に体系的につなげることを目的とする。振り返りのポイントは３つある。第一に、実習施設で実践的に学んだ観光支援ビジネス実務に関する理解度を確認する。第二に、当該実習施設で体得した各自の学修の成果と課題を自身で再検討する。そして第三に、学生各自が各エリアにおける各施設の実習で体得した観光支援ビジネスの状況について、エリアごとにグループ内で情報を交換しながら各エリアの観光振興・地域創生の全体像を統合する。授業は、講義にくわえて、グループワークやプレゼンテーションなどの授業形式によって進められる。	
			観光実務発展論	本授業では、「臨地実務実習Ⅱ」における実践的学修の成果を、理論的に整理しながら今後の学びに有機的につなげることを目的として、主に実習の各ステップにおける学びの振り返りを行う。振り返りのポイントは４つある。第一に、「臨地実務実習Ⅱ」での各自の実践的学修の成果と課題を確認する。第二に、「臨地実務実習Ⅱ」における観光支援ビジネスの基本実務について、各自の理解度を確認する。第三に、観光支援ビジネス全般にかかわる事業特性と業務の課題などについて、ケーススタディで理解を深める。そして第四に、観光支援ビジネスの事業体が、その立地する地域の観光振興にどのような活動をしているかを確認する。なおこの授業は、講義とともに、グループワークやプレゼンテーションによって行われる。	
			観光実務マネジメント論	本授業では、「臨地実務実習Ⅲ」における実践的学修の成果を、理論的に整理しながら今後の学びに有機的につなげることを目的として、主に実習の各ステップにおける学びの振り返りを行う。振り返りのポイントは４つある。第一に、「臨地実務実習Ⅲ」での各自の実践的学修の成果と課題を確認する。第二に、「臨地実務実習Ⅲ」における観光支援ビジネスの基本実務と発展実務について、各自の理解度を確認する。第三に、観光支援ビジネス全般にかかわる事業特性と経営管理の課題などについて、ケーススタディによって理解を深める。そして第四に、観光支援ビジネスのマネジメントにおいて、観光振興やインバウンド観光の事業がいかに位置づけられているかを理解する。なおこの授業は、講義とともに、グループワークやプレゼンテーションによって行われる。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業専門科目	職業専門科目群（観光英語）	観光基礎英語Ⅰ	一般英語の修得を基本としつつ、ESP（English for Specific Purposes、特定目的のための英語）と呼ばれる領域の一つである観光英語においてよく用いられる英語表現を修得し、これを活用する能力を伸ばすことを主目標とする。今日、海外に出かける日本人が増加し、日本に観光目的でやってくる外国人の数も増えているが、いずれの場合においても英語でコミュニケーションが行われる場合が多く、そこにはおのずと典型的に用いられる英語表現や定型表現が見られる。本授業では、これらの表現を中心に、観光英語に慣れ親しむことを目指し、教科書及びCD等の補助教材を用いた演習形式による学修を展開する。授業の進行は、教科書の構成に従い、課を追って進めることを基本とする。	
		観光基礎英語Ⅱ	「観光基礎英語Ⅰ」の学修をもとに、観光分野において用いられる英語表現を幅広く学び、これを活用する能力を一層伸ばすことを主目標とする。 各々の場面・文脈において用いられる英語表現には一定の定型表現があるが、その幅は、比較的限定されたものから、豊かなヴァリエーションを持つものまでさまざまであり、これらのヴァリエーションに親しむとともに、類似する場面にも対応できる応用力の修得を目指す。授業は、教科書及びCD等を用いた演習形式による学修を中心とし、適宜、応用的場面を織り込み、そうした場面に対応するにはどのような表現を用いれば良いかといった課題について、ペアやグループで討議するなど、コミュニケーション活動に展開していく。教科書は課を追って進めることを基本とする。	
		観光英語Ⅰ	観光英語では「読む・書く・聴く・話す」技能が重要である。特に、この4つの技能の中でも、言語が確立していく出発点は「聴く」能力である。本授業では、「観光基礎英語Ⅰ」及び「観光基礎英語Ⅱ」で修得した英語力をもとに、聴くトレーニングを中心に徹底的に学修し、「聴く」能力を向上させることで、英語を通してより高度なコミュニケーションができる力を身に付ける。主な学修方法としては、「単語・句・文」を繰り返し聴き、その後、声を出してシャドーイング練習をする。次に、ある程度の長さの文章をシャドーイング練習することにより、集中力を養うと同時にリスニング力を向上させる。	
		観光英語Ⅱ	「観光英語Ⅰ」の場合と同様に「単語・句・文」を繰り返し聴き、シャドーイング練習をするが、より高度なレベルの内容となる。聞き取れない部分は、発音とその前後の意味や内容から推測し、リスニングをする。こうしたシャドーイング練習を繰り返すことにより、集中力をさらに高め、英文を聴きながら推測し理解する能力を身に付ける。これは日本人が日本語を聴くときに無意識のうちに行っている作業である。カラオケ上達方法と同様に、シャドーイングの技能の向上はトレーニングしかなく、それに費やした時間で決まる。言い換えればシャドーイングの日常化で決まる。なお本授業の履修には、「観光英語Ⅰ」を履修済みであることが望ましい。	
		観光英語Ⅲ	通訳案内士は日本の歴史・文化・地理・アートその他様々なことについて語らなければならないが、同時にニュースにも精通していなければならない。そこでこの授業は、英語ニュースを教材にして授業を進めていく。まずは優しい内容のニュースを繰り返し聴き、その内容のアウトラインを英語で述べる。次にニュース内容をディクテーションし、聴こえない部分と聴き間違えた部分を学生自身に気づかせる。同時に「発音と意味内容の両方から聴き取れない部分を推測する」ことの重要性に気付かせ、実践させる。ニュース内で用いられた単語のテストも実施する。なお本授業の履修には、「観光英語Ⅱ」を履修済みであることが望ましい。	
		観光英語Ⅳ	「観光英語Ⅲ」より単語・構文・内容ともにレベルが高い英語ニュースを教材にする。学生は繰り返し聴き、内容のアウトラインを英語で説明し、ニュース内容をディクテーションする。内容を理解できた段階で、その内容についてどう思うかといった、感想・意見等のコメントを各自述べる。このとき他の学生は、発表する学生のコメント内容をよく聴く。これらを繰り返すことで、他人の話を聴きながら自分の意見を考え、述べることができるように訓練する。ニュース内で用いられた単語のテストも実施する。なお本授業の履修には、「観光英語Ⅲ」を履修済みであることが望ましい。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
展開科目	展開科目群	経営学	現代社会において欠かすことのできない「企業」とは、どのような存在か？そして、この「企業」を対象とする社会科学である経営学は、どのようにして生まれ、そして発展してきたのか？この授業では、経営学の基礎を講義するとともに、企業の目標、存在意義を検討するとともに、誰が「企業」を経営し、それを監視・監督するのかという企業統治の問題と、「企業」は誰に対して社会的責任を負っているのかを明らかにする。	
		中小企業論	日本の中小企業は企業全体の99.7%を占めるにもかかわらず、中小企業の実態については十分な理解がされていない。一方、ベンチャー企業はイノベーションを実用化することにより雇用の創出となり、日本の経済・産業の発展に貢献する。本講義では、日本の経済・産業における中小企業の位置づけと役割、さらに中小企業の特徴、ベンチャーや起業の実態についての現状を学修する。中小企業に関する理論と実態を理解し、中小企業の今後の動向を探る。授業は毎回１テーマを取上げ、レジュメに基づき進める。講義形式を基本とし、必要に応じて議論を交える。	
		コミュニティデザイン論	コミュニティデザインとは、ある地域やコミュニティのなかで、人と人のつながり方やその仕組みをデザインすることである。別の言い方をすれば、地域の課題解決に向けたコミュニティの主体づくり、ともいえる。まちづくりや地域振興をめぐる社会的状況は刻々と変化しており、コミュニティデザインという概念や取り組み自体も、そうした社会的な動きとリンクしながら浸透してきている。この授業では、講義形式での学修を中心に、コミュニティデザインの理念や歴史的な経緯を把握したうえで、一部グループワーク等を通じて、コミュニティデザインで求められるファシリテーションやチームづくりについて学びを深めていく。	
		マーケティング論	この授業は、マーケティングの基礎的な概念や理論枠組みを理解し、それらの知識を活用できるようになることを目的とする。そのために、企業と市場との関係やマーケティング意思決定に関して特に焦点を当てる。授業計画としては、企業と市場との関係について５回分、マーケティング意思決定について８回分、マーケティングの応用領域について２回分という配分で講義を行う。応用領域では、国際マーケティングやサービスマーケティングに関する説明を行う。また、授業は基本的に講義の形式をとるが、理解促進のためにグループワーク等も行う。	
		起業論	本講義は、ベンチャー・ビジネス（VB）の現状と展望、および起業のために不可欠な知識や能力などについて、政策立案者の立場やベンチャー・ビジネス実践の視点から概説する。VBの現状と展望については、ベンチャー企業の特性、起業の環境や制度、地域振興、グローバル競争に勝つ方策等が分析され、その分析を踏まえて、自身の起業や社内起業のビジネスプラン作成に必要な企画能力や、科学技術政策、産業政策、資金調達、知的資産の権利化（特許等）、ベンチャーキャピタルなどの基礎知識を学修する。この授業は、アクティブ・ラーニングによって、教員－学生間の双方向学修で進められる。	
		ファシリテーション実習	ますます多様化する顧客のニーズを満たし、激しい競争の中で生き残っていくためには、人材を育て、組織を活性化していくための手法が必要である。時代の変化とともに、リーダーシップのスタイルも変容してきた。指示、命令するトップダウン型のリーダーシップのスタイルに加え、チームメンバーから意見を引き出し、コンセンサスを取る「ファシリテーション型リーダー」が求められている。本実習では、相手の思考と行動を促すコミュニケーションスキル「コーチング」と、チーム活動や会議運営を促進する「ファシリテーション」について学び、組織を活性化するための人材戦略の上でどのように活用すべきかを実践的に学ぶ。同じ学修目標を共有する「チーム活動」として、ファシリテーション実践の場としたい。	
		ＩＣＴとＩｏＴ	コンピューターの進歩、インターネット環境や通信技術の発展により、現在ICT（情報通信技術）は至る所で利用されており、生活するうえで欠かせない存在となっている。このような状況の中で、ICTに関する知識を修得することの重要性は年々高くなっており、さらに今後は、情報サービスの価値向上に向けて、IoT（Internet of Things）の活用も必要となる。こうした流れを踏まえ、本講義では、学生がセルフサービスを活用し情報サービスを構築できるよう、ICTとIoTの基礎知識、ICTとIoTのAPI（Application Programming Interface）に関する知識、APIを利用するための最低限のプログラミングの知識を学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
展開科目	展開科目群	人工知能概論	人工知能（AI：Artificial Inteligence）の研究は1950年代から続いているが、現在は第三次人工知能ブームと言われ、新聞やニュースなどでも人工知能に関する話題を見聞きする機会が増えた。本講義ではまず、人工知能とは何か、人工知能にはどのような歴史があるのかについて述べる。その後、人工知能に関する基礎知識や実現するための仕組みについて概観する。また、ビジネスの現場で人工知能はどのように導入されているのか、人工知能をどのように活用すべきか、今後人工知能の進化が社会にどのような影響を及ぼすのかなどについても俯瞰する。授業は原則、講義形式で実施するが、人工知能に関するテーマについてグループ内で議論し、それを報告する機会も設ける。	
		ＩＣＴ実習	我々が日々接する情報サービスは、インターネットなどICT（情報通信技術）の活用を前提に作られている。近年では、エンドユーザー自身の手によって情報サービスを構築する「セルフサービス」が注目されており、ICTやIoT（Internet of Things）のAPI（Application Programming Interface）を組み合わせる（マッシュアップ）ことで、ICTとIoTの専門知識をもたないエンドユーザーであっても、情報サービスを高速に開発できるようになってきた。本実習は、講義科目「ICTとIoT」で学修した知識を実践することにより、知識の定着・深化を図るとともに、実際にセルフサービスを活用し情報サービスを構築できる力を身につける。具体的には、ICTとIoTのAPIを活用した情報サービスを企画・設計・開発する一連の過程を実践で学ぶ。	
		人工知能プログラミング実習	人工知能（AI：Artificial Inteligence）は今、第三次ブームを迎えており、新聞やニュースなどを通じて、人工知能に関する話題を日々見聞きするようになった。人工知能は、身近な家電や各種サービスにも導入されつつあり、さまざまな分野への応用や、人口知能を活用した新しいビジネスの創出などが期待されている。本実習ではまず、人工知能を実装するためのプログラミング言語のひとつであるPtyhon（パイソン）を利用して、基礎的なプログラミング方法（条件分岐と繰り返し、関数）について学ぶ。そして、回帰と分類、クラスタリングといった統計的機械学習の基礎概念を学んだ後、簡単なデータ分析を通じて人工知能プログラミングの活用方法を身につける。なお本授業の履修には、「人工知能概論」を履修済みであることが望ましい。	
		マップデザイン実習	近年、スマートフォンなどのデジタル機器が普及したこともあり、Google Mapsをはじめとして地図が身近な存在となっている。また、企業や行政などのさまざまな組織の現場においても、地図の作成やデジタルマップの利用が重要となっている。この授業は、基本的な地図の作成やその表現方法を身につけ、目的に応じて地図を作成できる手法の修得を目的とする。実習では、Adobe　Illustratorを用いてベースマップのトレースや地図表現の方法といった基本的な製図法に習熟し、そのうえで課題の発見や地図の作成目的などの設定操作の方法を修得する。その際には、教員の指定した地域を対象とし、その地域の課題に応じた地図を作成することとする。	
		メディアコンテンツ実習	この実習は、メディアコンテンツが展開する実相やそれに伴う課題について、調査研究を通して体験的に理解を深めるものである。近年、紙媒体の漫画作品がアニメ化されたり、実写ドラマ化されたり、さらにそれが映画化されたりするなど、メディアコンテンツの積極的な展開が目立っている。また、一つの作品が他言語に吹替えられたり、設定や物語の一部に改変が加えられたりして他国で受容されるのも、コンテンツ展開の一側面である。このように、生み出された作品がそれだけで完結せず、さまざまなメディアや文化を越えて広まっていく状況について、学生各自が題材を選びながら追試することで、コンテンツの流通について知見を深めることを本実習の目的とする。実習準備でメディアコンテンツの流通について体験的に学び、実習では学生自らが任意のコンテンツを選び、その展開について調査をし、プレゼンテーションおよびディスカッションを行う。	
総合科目	総合科目	専門演習	この演習は、これまでに観光振興専門職を目指して学んだ全科目および、この演習と同時に学んでいる全科目との学修成果を、学生自身で総括する目的を持つ。学生は、「観光地研究」という統一テーマについて、担当教員による指導の下で、演習クラスの他の学生と協力しながら調査研究する。この演習のフィールドワークやワークショップを通して、観光振興専門職にとって不可欠となる、新たな課題を自ら発見する力、その課題を主体的に探究する力、課題に協働で取り組む力、課題を解決する力を身につける。また本演習では、生涯に渡るキャリア形成の一助となり、本学が推薦する「キャリア形成必読書」のうち、教員が指定する職業専門科目関連の書籍2冊の読み方を身につける。	

学校法人穴吹学園　設置認可等に関わる組織の移行表

令和2年度	入学定員	編入学定員	収容定員	令和3年度	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
				せとうち観光専門職短期大学				専門職短期大学新設
				観光振興学科	80	―	240	
				計	80	―	240	
専門学校穴吹ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｶﾚｯｼﾞ				専門学校穴吹ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｶﾚｯｼﾞ				
情報ｼｽﾃﾑ学科	20	―	60	情報ｼｽﾃﾑ学科	15	―	45	定員変更(△5)
				AIﾃｸﾉﾛｼﾞｰ学科	15	―	45	学科の設置
ｹﾞｰﾑｸﾘｴｰﾀｰ学科	20	―	60	ｹﾞｰﾑｸﾘｴｰﾀｰ学科	20	―	60	
ﾈｯﾄﾜｰｸｾｷｭﾘﾃｨ学科	15	―	30	ﾈｯﾄﾜｰｸｾｷｭﾘﾃｨ学科	15	―	30	
情報ﾋﾞｼﾞﾈｽ学科	15	―	30	情報ﾋﾞｼﾞﾈｽ学科	15	―	30	
国際ITｴﾝｼﾞﾆｱ学科 ｾｷｭﾘﾃｨｺｰｽ2年制	15	―	30	国際ITｴﾝｼﾞﾆｱ学科 ｾｷｭﾘﾃｨｺｰｽ2年制	0	―	0	令和3年4月学生募集停止
国際ITｴﾝｼﾞﾆｱ学科 ｾｷｭﾘﾃｨｺｰｽ3年制	25	―	75	国際ITｴﾝｼﾞﾆｱ学科 ｾｷｭﾘﾃｨｺｰｽ3年制	25	―	75	
国際ITｴﾝｼﾞﾆｱ学科 電気CADｺｰｽ3年制		―		国際ITｴﾝｼﾞﾆｱ学科 電気CADｺｰｽ3年制		―		
計	110	―	285	計	105	―	285	
専門学校穴吹ﾋﾞｼﾞﾈｽｶﾚｯｼﾞ				専門学校穴吹ﾋﾞｼﾞﾈｽｶﾚｯｼﾞ				
ﾌﾞﾗｲﾀﾞﾙ学科	25	―	50	ﾌﾞﾗｲﾀﾞﾙ学科	25	―	50	
企業ﾋﾞｼﾞﾈｽ学科	15	―	30	企業ﾋﾞｼﾞﾈｽ学科	15	―	30	
公務員ﾋﾞｼﾞﾈｽ学科	25	―	50	公務員ﾋﾞｼﾞﾈｽ学科	25	―	50	
公務員学科	15	―	15	公務員学科	15	―	15	
国際ﾋﾞｼﾞﾈｽ学科	30	―	60	国際ﾋﾞｼﾞﾈｽ学科 ﾋﾞｼﾞﾈｽｺｰｽ2年制	40	―	80	定員変更(+10)
				国際ﾋﾞｼﾞﾈｽ学科 ﾋﾞｼﾞﾈｽｺｰｽ3年制	20	―	60	コースの新設
海外ﾋﾞｼﾞﾈｽ学科	20	―	40	海外ﾋﾞｼﾞﾈｽ学科	20	―	40	
日本語学科1年(4月生)	44	―	44	日本語学科1年(4月生)	44	―	44	
日本語学科1年6ヶ月	58	―	116	日本語学科1年6ヶ月	58	―	116	
日本語学科2年	80	―	160	日本語学科2年	80	―	160	
計	312	―	565	計	342	―	645	
専門学校穴吹ﾃﾞｻﾞｲﾝｶﾚｯｼﾞ				専門学校穴吹ﾃﾞｻﾞｲﾝｶﾚｯｼﾞ				
ｸﾞﾗﾌｨｯｸﾃﾞｻﾞｲﾝ学科	25	―	50	ｸﾞﾗﾌｨｯｸﾃﾞｻﾞｲﾝ学科	25	―	50	
ﾏﾝｶﾞ･ｺﾐｯｸｲﾗｽﾄ学科	25	―	50	ﾏﾝｶﾞ･ｺﾐｯｸｲﾗｽﾄ学科	25	―	50	
ﾄｰﾀﾙｲﾝﾃﾘｱ学科	25	―	50	ﾄｰﾀﾙｲﾝﾃﾘｱ学科	25	―	50	
計	75	―	150	計	75	―	150	
専門学校穴吹ﾋﾞｭｰﾃｨｶﾚｯｼﾞ				専門学校穴吹ﾋﾞｭｰﾃｨｶﾚｯｼﾞ				
美容学科	35	―	70	美容学科	35	―	70	
ﾋﾞｭｰﾃｨｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ学科	15	―	30	ﾋﾞｭｰﾃｨｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ学科	15	―	30	
ﾄｰﾀﾙｴｽﾃﾃｨｯｸ学科	15	―	30	ﾄｰﾀﾙｴｽﾃﾃｨｯｸ学科	15	―	30	
計	65	―	130	計	65	―	130	

令和2年度	入学定員	編入学定員	収容定員
専門学校穴吹工科ｶﾚｯｼﾞ			
自動車整備学科(2年制)	25	―	50
自動車整備学科(3年制)	50	―	150
計	75	―	200
専門学校穴吹ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝｶﾚｯｼﾞ			
理学療法学科	60	―	180
作業療法学科	40	―	120
計	100	―	300
専門学校穴吹ﾊﾟﾃｨｼｴ福祉ｶﾚｯｼﾞ			
こども保育学科	30	―	60
介護福祉学科	70	―	140
ﾊﾟﾃｨｼｴ･ﾍﾞｰｶﾘｰ学科	35	―	70
計	135	―	270
専門学校穴吹動物看護ｶﾚｯｼﾞ			
動物看護総合学科	30	―	90
動物健康管理学科	30	―	60
計	60	―	150
穴吹医療大学校			
看護学科	80	―	320
歯科衛生学科	40	―	120
医療事務･ﾄﾞｸﾀｰ秘書学科	30	―	60
診療情報管理士専攻学科	10	―	10
計	160	―	510

令和3年度	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
専門学校穴吹工科ｶﾚｯｼﾞ				
自動車整備学科(2年制)	25	―	50	
自動車整備学科(3年制)	50	―	150	
計	75	―	200	
専門学校穴吹ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝｶﾚｯｼﾞ				
理学療法学科	60	―	180	
作業療法学科	40	―	120	
計	100	―	300	
専門学校穴吹ﾊﾟﾃｨｼｴ福祉ｶﾚｯｼﾞ				
こども保育学科	30	―	60	
介護福祉学科	70	―	140	
ﾊﾟﾃｨｼｴ･ﾍﾞｰｶﾘｰ学科	35	―	70	
計	135	―	270	
専門学校穴吹動物看護ｶﾚｯｼﾞ				
動物看護総合学科	30	―	90	
動物健康管理学科	30	―	60	
計	60	―	150	
穴吹医療大学校				
看護学科	80	―	320	
歯科衛生学科	40	―	120	
医療事務･ﾄﾞｸﾀｰ秘書学科	30	―	60	
診療情報管理士専攻学科	10	―	10	
計	160	―	510	